

新刊紹介

おいしさの表現辞典

川端晶子, 瀧上匠子 著

東京堂出版, 405 頁, 定価 2,800 円+税

2006 年 8 月発行

明治後期以降の文学作品, エッセイおよび新聞など 350 冊の中から, 「おいしさ表現」の用例を約 3,000 抜粋し, まとめた辞典である。

近年, グルメ番組, グルメ雑誌, グルメ情報等が溢れているが, この中で「おいしさ」をどう表現するか, 誰も大変興味あるところである。この辞典は, そのようなとき先人たちはどのような表現でどのような評価を与えていたかを知ることができる, ちょっと“心が豊かになる”書である。

目次: 序論 おいしさとは

- 1 穀類, いも, 豆のおいしさ表現
- 2 野菜, きのこと, 藻のおいしさ表現

- 3 果物, 果実のおいしさ表現
 - 4 魚介のおいしさ表現
 - 5 肉, 卵, 乳のおいしさ表現
 - 6 調味料 (含砂糖, 油) のおいしさ表現
 - 7 菓子, 嗜好飲料のおいしさ表現
 - 8 料理全般 (水を含む) のおいしさ表現
- 出典一覧
味覚表現索引

目次の 1~8 には, 食品または料理別のおいしさ表現が, 文献中の文章を切り取る形で引用され, また最後の味覚表現索引には, おいしさ表現自身—例えば「上品な甘さ」「とろりと口の中でとける」等—が約 5,000 語羅列してある。食品 (料理) とおいしさ表現の両方から調べることができる。

これだけの文献を読んで, おいしさ表現を拾い出すという膨大な作業をされた執筆者らに敬服する。

(今井悦子)

毛利臣男の劇的空間 —舞台・ファッション・アート—

水谷由美子 著

織研新聞社, 2006 年 11 月発行

本書は 1980 年代から空間演出, アートディレクター, 芸術監督, 衣装デザイナーなど幅広い分野で活躍し, 世界の一流アーティストたちとの出会いを通して, 豊かな創造をもたらした毛利臣男を紹介したものである。

第 1 章 舞台空間の源流

舞台空間の創造について, オペラ, バレエ, スーパー歌舞伎, 現代劇を取り上げ, その活躍をまとめている。とりわけパリで初めて衣裳を手がけたロシアバレエ「ル・コック・ドール」は, その後の毛利の舞台芸術家としての地位を確立するものであった。また, 市川猿之助主演のスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」は, 斬新な衣装とさまざまな新しい試みで注目されたものである。その後の活動についての多くの写真と解説がある。

第 2 章 アートとファッション

1973 年に毛利が初めて ISSEI MIYAKE のファッションショーの演出を行った。ショーを舞台空間として構成する手法が話題となってファッションショーの演出家が誕生したという。この「動のファッション空間」に加えて, 「静のファッション空間」, 「コスチューム展の空間演出」について解説されている。

第 3 章 コラボレーション美学

「モーリの色彩空間」と題したコラボレーションは 10 年間続き, その最後の展示が 2006 年 10 月に行われた。さまざまなジャンルの人々とのコラボレーションは大いに注目されたが, 特に筆者とその学生たちも参加し, 若者や無名のデザイナーたちの発表の場ともなったのである。

モーリ・マスク・ダンスは能をイメージして毛利が構成した仮面舞踏劇である。これは地域とのコラボレーションがなされ, さらに教育の一環として大きな成果を上げている。

以上のように, 筆者の長年の毛利研究が, 直接関わった体験と共に生き生きと読者に伝わってく